

概 要
第 29 回 市民と市長の対話ひろば ～もりりと語ろう、宝塚市の未来～ テーマ：市役所周辺エリア（シビックゾーン）の未来を語ろう！～スポーツセンター・末広中央公園・河川敷などをもっと楽しく！使いやすく！～
日時：令和 8 年 7 月 11 日（土） 午後 2 時～午後 3 時 45 分 場所：中央公民館 ホール 参加者：23 名 出席者：森市長 都市安全部 江崎部長 他 都市整備部 中村部長 他 社会教育部 藤田部長 他
《市長のテーマ説明》 1. 趣旨 ・市役所周辺エリア（シビックゾーン）の今後の方向性についての様々な意見やアイデア、希望（残してほしい施設や新設してほしい機能など）をお聞きし、対話を進めたい。 2. シビックゾーン内の各施設の現状と課題 ・市役所庁舎 本庁舎は築 46 年（村野藤吾氏設計）で永続性のあるデザイン。今秋には市民ホールを開放予定。第 2 庁舎は築 4 年と新しい。 ・末広中央公園 阪神淡路大震災の経験に基づく防災公園（貯水槽やベンチなどの防災ツールを配備）。普段は憩いの場やイベント会場として広く活用されている。 ・中央公民館、末広体育館 中央公民館は築 7 年で新しい。一方で末広体育館は築 55 年と老朽化が目立ち、建て替えが必要な時期に来ている。 ・武庫川河川敷 県管理の土地だが市が許可を得て、公園として管理。スポーツやイベントに活用されているが、サッカー・テニスコートなどの老朽化が進む。 ・スポーツセンター 総合体育館（築 40 年）、武道館（築 40 年）、屋内プール（築 34 年）、屋外プール管理棟（築 37 年）、野球場などがあるが、全体的に老朽化。駐車場の不足・出入り口の混雑も課題。水回りの施設は維持・修繕に多額の費用がかかる。 ・教育総合センター（本館・分室） 本館は築 34 年。分室は築 57 年と非常に古く、対応が必要。 3. 今後の方向性を議論する理由と課題 ・公共施設の老朽化がある。市全体の施設の約 70%が築 30 年以上経過しており、修繕・建て替え・他施設への転換などの取捨選択を迫られている。また、現役・子育て世代の減少に伴う働き手不足を見据え、デジタル化（DX（デジタルトランスフォーメーション）・

AX (AI トランスフォーメーション)) や働き方の見直しが必要。

・厳しい財政状況であり、市全体で今後 10 年間に 23 億円の累積赤字を想定している。物価高騰や金利上昇もあり予断を許さない。シビックゾーン内の公共施設の維持・管理・修繕だけでも毎年数億円規模の多額の費用がかかっているため、賢い縮め方を考える必要がある。

4. 解決に向けたアプローチ

・市役所前ひろばを民間のキッチンカーやイベントに貸し出すなど、楽しみながら維持管理費を得る仕組みを模索している。

・市民、行政、民間の連携で三方良しとなるよう、エリアの魅力向上に民間事業者の力を借りる。ただし、障害者向け水泳教室などの高い公益性を持つ事業は、何でも民間任せにせず行政が配慮する必要がある。

《対話》

1 参加者【部活動の地域移行と子どもの遊び場（光が丘地区）について】

・中学生の息子がいるが、部活動が地域移行し、削減されていく流れに不安を感じている。

・光が丘地区には児童館などがなく、子ども（小学生～高校生）が校区内で集まって遊べる公共スペースが不足している。シビックゾーンだけでなく、周辺の山の手エリアにも分散して子どもが遊べる場所を作してほしい。

➡市長

・人口・子どもが減る中での地域移行は難しい状況であるが、中高生にとってスポーツや文化活動は大事な学びの時間であり、学校や地域の施設のあり方と合わせて考えていくべき重要な問題である。

・平日のちょっとした時間や雨の日近くで遊べる場所の必要性や、子どもの成長段階に合わせた居場所作りの重要性は理解している。地域の公園などの維持も大変ではあるが、具体的な要望は引き続き受け止め、どのような工夫ができるか考えていきたい。

2 参加者【近隣トラブル（害虫・蜂の発生）への対処と罰則制定について】

・近隣住民の管理不足によって害虫や蜂が発生しており、大変困り果てている。以前に比べて保健所が十分に対応してくれないと感じる。

・自身で警察や弁護士、神戸の医療機関などに相談しながら対応しており、周囲の街灯の明るさによる影響なども指摘されている。

・路上喫煙の罰金制度のように、害虫を発生させた住民に対して月 5 万円といった罰金・徴収金を科す制度を市で作れば、財政難の解決にもつながるのではないかと。しっかり調査・対応してほしい。

➡市長

・近隣住民同士が迷惑をかけずに暮らしていくことが大切である。

・この場では個別の事案について詳しく踏み込むことは難しいため、困りごとについては別途個別に相談してほしい。市としてできる対応を模索したい。

3 参加者【体育館の集約と跡地活用および教育総合センターの機能移転について】

・老朽化している末広体育館を廃止し、スポーツセンターへ機能を集約してはどうか。跡地には、河川敷のランナーらが汗を流せる温浴・シャワー施設（ナチュラルスパの小型版など）や、子どもの預かり施設、利便性を高めるコンビニなどを誘致してほしい。

・シビックゾーン内の教育総合センターでは教科書展示等を行っているが、市民がアクセスしやすい宝塚駅や逆瀬川駅周辺の商業施設の催事場へ移転させてはどうか。

➡市長

・スポーツ機能の集約や、ランナー向けのシャワー施設、公園利用者が使えるコンビニ等の設置は検討に値するアイデアである。

・教育総合センター分室は老朽化しているが、教育総合センター本館自体はまだ築年数が浅く（築34年）すぐに解体・移転することは難しい。ただし、エリア内での機能のあり方や見せ方については考えていく。

4 参加者【末広中央公園の魅力向上と民間活力の導入について】

・横浜市にある山下公園のように、川（武庫川）や桜が見えるガラス張りのカフェやテラス席、景色を楽しみながらイートインできるコンビニ・売店（アイスクリームやケーキ等の軽食）を整備し、目的地となる場所にしてほしい。

・四季折々の花を楽しめるガーデンを整備し、散策目的の来園者を増やしてはどうか。

・既存のステージ等のスペースをより市民や若いパフォーマーに開放し、日常的に音楽や演劇、カラオケ大会などを楽しめる活気ある場所にしてほしい。

➡市長

・ガラス張りのカフェや魅力的な店舗の運営など、市役所単独では難しい分野は民間と手を組むことで実現の可能性を探りたい。

・防災公園としての機能を維持しつつ、宝塚らしさであるガーデニングを取り入れた景観づくりを検討する。

・市民の発表の場や音楽イベントなどでの活用についても、民間や市民の知恵を借りながら進めていきたい。

5 参加者【スポーツ・文化の街としての全国発信と自主財源の確保について】

・全国に注目される街づくりの一環として、末広中央公園などに、子どもが喜ぶ宝塚ならではの人形やマスコット（ゆるキャラ）を設置し、人を呼び込むきっかけにしてはどうか。

・財政難に対して緊縮するだけでなく知恵を絞って稼ぐべき。野球場の外野フェンスやテニスコート周辺に企業看板を誘致（1区画年5万円程度など）すれば、年間数百万円の新たな財源と街の活性化が生まれる。

・フィギュアスケートのりくりゅうペアのような世界一の選手が市役所を訪問した際、市長との面会だけで終わらせず、武庫川の堤防治いなどでパレードを開催して街全体で盛り上げるべきである。

➡市長

・宝塚市には手塚治虫氏の作品や宝塚歌劇などの強力なコンテンツがあり、資金面も考慮しつつそうしたキャラクター活用のアイデアは検討していきたい。

・民間スポンサーの獲得にはメディア露出などの効果も求められるため工夫が必要だが、財源確保に向けて知恵を絞るための参考にしたい。

・りくりゅうペアのパレードは市としても要望し現在も交渉したが、選手がプロ化しており、スポーツビジネスの観点などから実施には非常に高いハードルがある。同時に、魅力あるスポーツの街宝塚の発信方法については今後も模索していく。

6 参加者【主要駅と各拠点を結ぶ循環バスの運行について】

・シビックゾーンの再整備や公共施設の集約を進めるのであれば、主要駅と各公共施設を内回り・外回りで結び、巡回するような「循環バス」を新たに運行してほしい。

➡市長

・市役所やスポーツセンターは駅から距離があり、夏の猛暑や雨天時の移動において非常に重要な課題・ニーズである。

・市ではシビックゾーンのほか、小浜地域（医療・市立病院）や売布地域（福祉）など、各分野の拠点を集約化しようとしている。これらの拠点は駅から離れている傾向があるため、拠点同士を繋ぐ公共交通・アクセスのあり方は一体的に検討すべき必須の課題である。

7 参加者【宝塚の景観を活かした街づくりと行政改革について】

・武庫川の両岸に他県・他市からも人が押し寄せるような見事な桜並木を整備してほしい。

・宝塚歌劇や市役所のようなイメージを街全体に広げるため、条例等で住宅やマンションの屋根をスペイン風の赤色または明るい色に統一し、住みたくなる魅力的な景観を作ってはどうか。

・市の職員数に無駄がないか見直すべき。また、市を良くするアイデアを全職員から募り、推進するプロジェクトチームを庁内に立ち上げてはどうか。税金以外の「稼ぐ手段」をもっと貪欲に探してほしい。

➡市長

・桜並木の整備は県等との協議が必要なほか、維持管理（桜の寿命に伴う更新など）に多くの費用がかかる課題はあるが、人を呼び込む要素として重要である。また、景観に関するルールや市の取り組みについて、より市民への周知に努めたい。

・デジタル庁等の調査において、宝塚市民は景観に対して非常に高い価値や幸福度を感じているというデータがある。市としても景観は極めて重要な資源であると認識している。

・今後は人口減少に伴い市職員の数も減っていく時代になる。市職員が多すぎると批判されないよう全庁一丸となって知恵を絞り、市民からの厳しい意見も受け止めながら財政改善と魅力向上に努める。

8 参加者【残土処分場の安全・環境対策および市役所の電話対応について】

・家の近くの残土処分場は住宅地域にある。その前は、通学路にもなっているため 10 トントラックの往来が非常に危険である。2 年前には擁壁が崩壊する事故も発生している。

・団地 4 階分の高さまで積み上げられた残土（複数の異なる土壌）や重機の危険性、土砂崩れへの不安があるが、他市（京都や西宮など）のような厳しい盛土を規制する条例や通学路における規制が宝塚市にない。

・風による土埃が健康被害（呼吸器への影響など）や住民の生活環境（洗濯物が干せない等）に悪影響を及ぼしていると考えるが、長年対策がなされていない。これでは景観が綺麗な街とは言えない。

・以前、国民健康保険の手続きに関する問い合わせで 17 時 12 分頃に電話した際、職員は全員帰ったという事実と反する説明（窓口終了後の時間帯でも他業務で職員が在庁しているはず）をされた。納税者に対し、不適切な説明や嘘をつくような対応は改めるべき。

➡市長

・指摘のあった残土処分場について把握している。他自治体でも同様のトラブルがあり、私有財産権（私権）の制限という法的な難しさはあるものの、他市の条例等の事例を勉強し、子どもたちの安全確保や環境改善に向けて模索していく。

・電話対応に関して、窓口業務は 17 時で終了するが、職員は基本的に 17 時 30 分まで業務を行っている。案内担当者が「帰った」と誤解を招く回答をしてしまったと推測する。不快な思いをさせ申し訳ない。

9 参加者【特定地域（光が丘）における子どもの遊び場整備と新たな公園のあり方について】

・児童館を新設することの難易度や、光が丘地区に設置できる現実的な可能性を教えてください。

・必ずしも児童館という特定の建物にこだわっているわけではなく、子どもたちが日常生活の中で集まって遊べる安全なスペースや居場所が地域に確保されることを切望している。

➡市長

・特定の地域だけに児童館を新設すると他地域との公平性の問題が生じること、また多額の費用がかかるうえに、完成した頃には少子化が進んで利用されなくなる懸念があり、実現の可能性は現状としてかなり厳しい。

・ハコモノの建設に捉われず、限られた財源の中で子どもたちが集える方法を他自治体の事例などを参考に勉強・模索していく。

・シビックゾーン（末広中央公園）の活用に戻ると、東京の砧公園（世田谷美術館やレストランの併設事例）のように、現代の公園には単なる遊び場に留まらない多様な機能（憩いや飲食など）が求められている。

・子どもの発達段階に合わせた遊び場のあり方や、民間活力を導入してお金を稼ぐ仕組みも含め、これからの公園・公共スペースのあり方をアップデートしていきたい。

10 参加者【駄菓子屋のような子どものコミュニティ拠点づくりについて】

・子どもの遊び場は公園や児童館のような公共施設だけに限らない。かつて身近にあった駄菓子屋のような場所こそが、子ども同士の自発的なグループやコミュニティを生み出す良い居場所になるのではないかと。そうした簡易的な交流拠点を設置してはどうか。

➡市長

・多額の建設費がかかる児童館という枠組みだけに捉われる必要はない。私自身も小学生の頃に駄菓子屋で過ごした経験がある。昔の良さを活かしつつ、自由な発想で現代の子どもたちに適した居場所や遊び場のあり方を検討していきたい。

11 参加者【民間商業施設と末広中央公園の連動によるエリア活性化について】

・シビックゾーンの隣接エリアにある大型商業施設には多くの人が集まっている。これらの商業施設で買い物をした後に、そのまま末広中央公園へ足を延ばしてもらえような、周辺の商業活性化と公園の活性化を連動させた一体的な仕掛けや発想を持ってほしい。

➡市長

・行政側が設定したシビックゾーンという枠組みだけで物事を考えるのではなく、市民や家族連れが日常の暮らしの中で、どこへ買い物に行きどこへ立ち寄るか、という実際の行動や気持ち（生活者目線）に寄り添って、エリア全体の繋がりや活性化を考えていきたい。

12 参加者【河川敷の簡易交流スペース・バスケットゴールの設置および他市の先進事例（図書館）について】

・武庫川沿いにある足つぼやベンチが置かれた小さなスペースでは、自然と住民同士の交流や独自のトレーニングが生まれている。低予算でこのような自然にコミュニティができる場所をさらに増やしてほしい。

・子どもが屋外で気軽にバスケットボールを練習できる場所が市内に少なく、隣接する伊丹市まで行かなければならない。気軽に使えるバスケットゴールを街なかに設置してほしい。

・公園や新設される施設を週末に車で訪れる際、駐車台数や無料時間などの料金体系はどうなっているのか。

・友人に勧められて金沢市の先進的な図書館（カフェ併設、3時間無料の駐車場、暑くても子どもが遊べるスペース、自習・読書環境の充実）を訪れ、市民が誇りに思える施設づくりに非常に感動した。

・せっかく税金を使って公共施設を整備するのであれば、ただ作るだけでなく、市民が、皆に訪れてもらいたい、使いたい、と思える魅力的な設計にするべき。

➡市長

・高齢化に伴い、子ども用の遊具だけでなく散歩コースに設置された健康用具のニーズが高まっていることを認識し、効果的な人流・コミュニティ創出の視点として受け止める。

・気候変動（猛暑）や競技人口の減少により、大がかりな屋外スポーツから、バドミントンやバスケットボールなど少人数・屋内でできるスポーツの人気の高まっている。日本人選手の活躍でバスケットボールへの関心も高まっており、街なかにバスケットゴールがある環境の価値も認識している。

➡担当部

・末広中央公園の駐車場は現在約 120 台。現行は 60 分無料、以降 30 分 100 円だが、本

年（2026 年）10 月より 60 分無料、以降 20 分 100 円に改定（料金引き上げによる応分の負担・財源確保）を予定している。

➡市長

・満車になりやすい週末などは市役所の駐車場等も併せて活用可能であり、利用時間帯による偏りの課題は引き続き整理していく。

・私自身も和歌山市の先進的な図書館（本屋やカフェが一体化し、子どもが遊べる複合的な空間）に感銘を受けた経験がある。

・本市の既存の図書館も老朽化が進んでおり、将来的な整備にあたっては、従来の公だけの整備に捉われず、民間連携（公民連携）を導入した人が集まる魅力的な場へと発想を変えていく必要がある。

13 参加者【観光花火大会の復活可能性と代替案について】

・かつて宝塚市で実施されていた花火大会を復活させることはできないか。以前、宝塚南口駅周辺は川幅の狭さやマンション住民への配慮から難しいと聞いたが、市役所や末広中央公園があるシビックゾーンであれば、周囲は公共スペースであり、夕方 17 時以降は人も少ないため実施可能ではないか。

➡市長

・かつての観光花火大会の歴史や市民の期待は理解しているが、明石市での歩道橋事故以降、特に公的主催のイベントに対する警備基準が極めて厳格化され、必要な経費が大幅に高騰している。また、騒音や火気使用に伴う安全確認、開催後の近隣住民への対応など、実施に伴う行政側の実務的な負担や周囲への影響は非常に大きい。

・近年は花火の代わりに安全確保やスペースの制約が少ないドローンショーを導入する自治体も増えており、こうした新しい技術の活用も選択肢として関心を持っている。

・現状は優先すべき市民サービスがあり、財政的余裕はないが、将来的に市民が楽しめるイベントをどのような形で実現できるか、模索している。